

# M-KITCHEN 地下街防災推進計画

令和 2年 2月

株式会社 神戸新聞会館

1. 地下街の名称、位置、区域及び面積

<p>地下街の名称</p>	<p>M - KITCHEN</p>				
<p>地下街の位置</p>	<p>兵庫県神戸市中央区雲井通8丁目3番地</p>				
<p>地下街の区域</p>	<p>JR三ノ宮駅（地上）へ</p> <p>さんちか~JR→連絡地下通路</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通路部分</li> <li>店舗部分</li> <li>WC・EV昇降路・機械室・電気室</li> </ul> <p>地上出口</p> <p>M-INT神戸</p> <p>地上へ</p> <p>地上出口</p> <p>阪神三宮駅東口</p>				
<p>全体面積</p>	<p>1, 071. 60m<sup>2</sup></p>	<p>地下通路面積</p>	<p>375m<sup>2</sup></p>	<p>その他(WC・EV昇降路・機械室・電気室)</p>	<p>163m<sup>2</sup></p>

## 2. 地下街管理会社の代表者

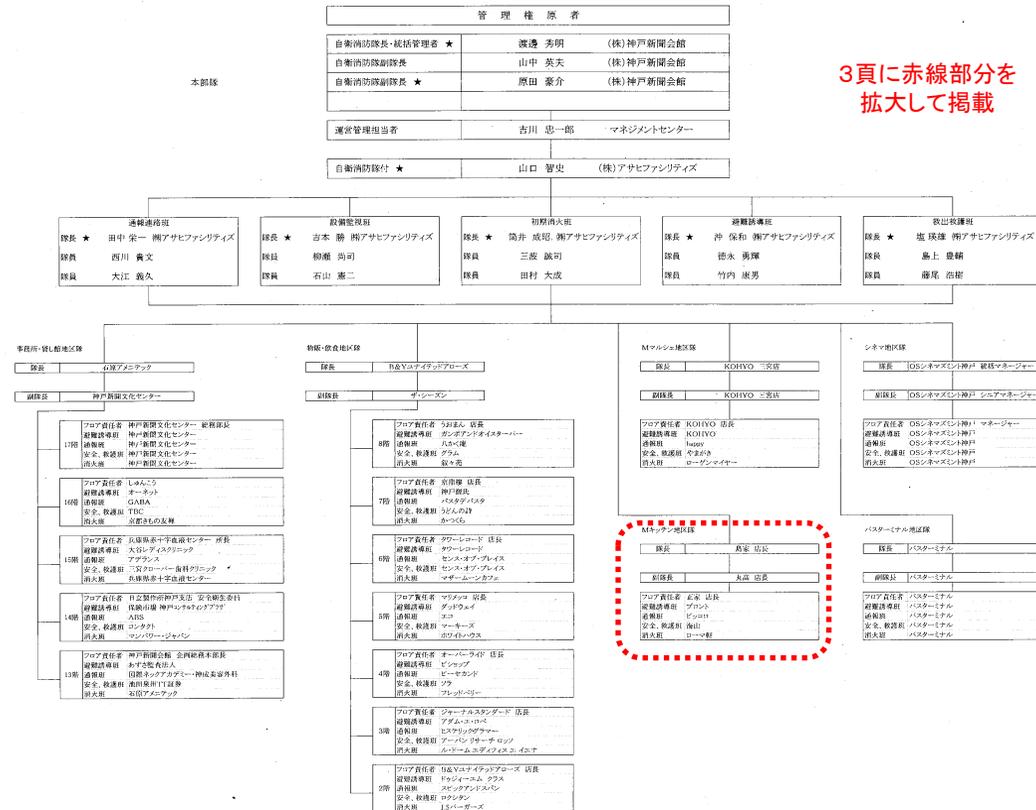
株式会社神戸新聞会館 代表取締役社長 田守 茂男

## 3. 防災管理責任者及び管理体制

防災管理責任者

自衛消防隊長・統括管理者 渡邊 秀明

管理体制



### 3.防災管理責任者及び管理体制管理

防災管理責任者

自衛消防隊長・統括管理者 渡邊 秀明

管理体制

2頁の赤線部分

Mキッチン地区隊

隊長	島家 店長
----	-------

副隊長	丸高 店長
-----	-------

フロア責任者	正家 店長
避難誘導班	プロント
通報班	ピッコロ
安全、救護班	海山
消火班	ローマ軒



#### 4.安全点検・調査結果

構造物は地下にあるが、「地下街の安心避難対策ガイドライン平成26年4月(国土交通省 都市局 街路交通施設課)」耐震13の記載に準じ、地上構造物として耐震診断を実施する。

本構造物は主体構造部がRC造、SRC造の混合構造であることから、耐震診断は「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説 2001年改訂版」、「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説 2009年改訂版」に準拠して行う。また、中柱は鉄骨柱となっており、SRC造が主架構の当該建物において、耐力の寄与が不明瞭であるため耐震診断において、その耐力は考慮しない。

(耐震診断結果)

形状指標については、構造物形状に係る係数(SD2(a項~k項))について、エキスパンションジョイントによる低減が生じている。また、地下構造物であることより、地下階による割り増しが生じている。平面剛性・剛重比による低減は生じない。

構造物性状については、X(南北)方向は、壁のせん断破壊、柱の曲げ破壊が支配的な耐震性状を示している。Y(東西)方向は、壁のせん断破壊が支配的な耐震性状を示している。X、Y方向共にIS値採用時において第2種構造要素となる柱は存在しない。下表に各方向別の判定結果を示す。

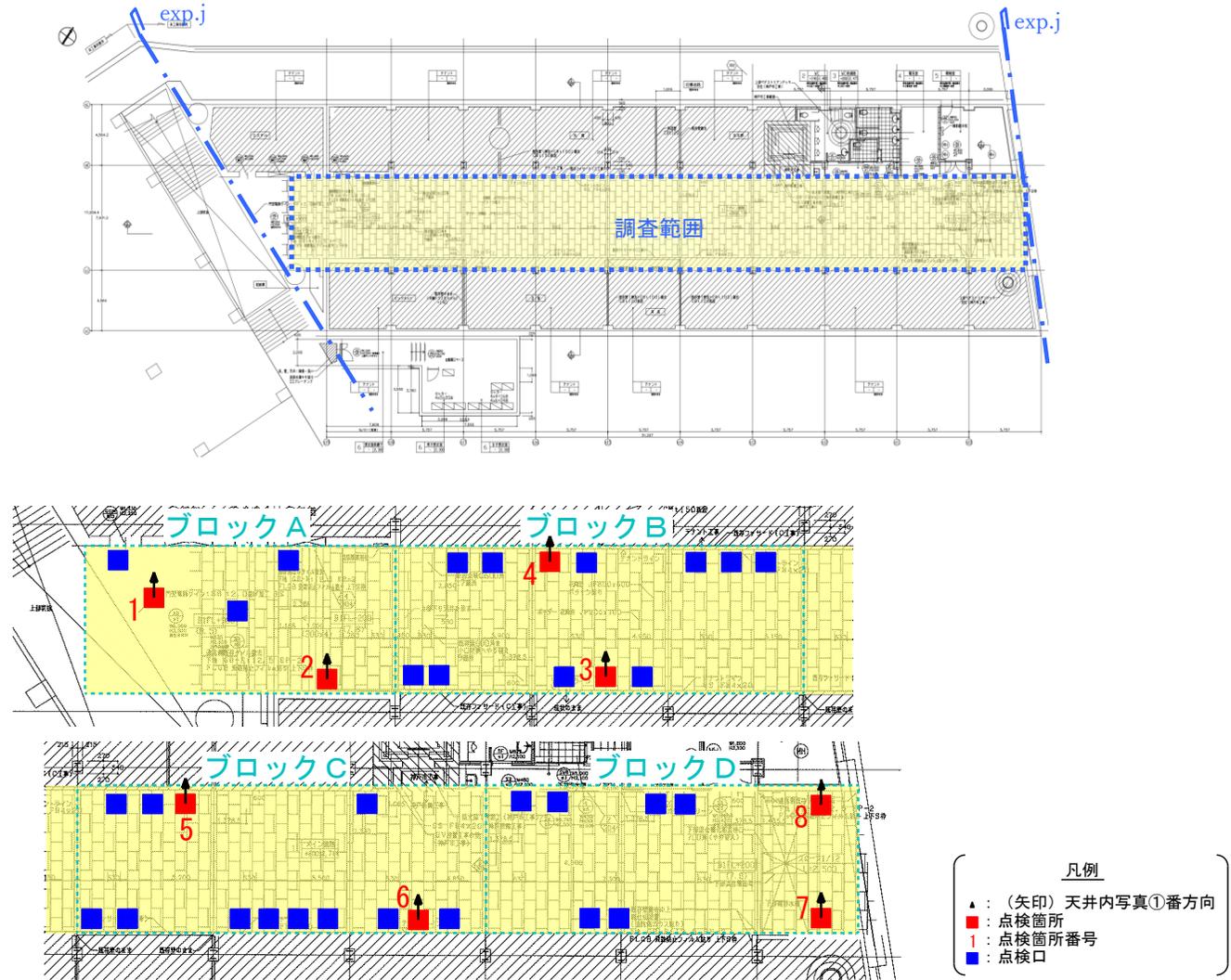
X(南北)方向:IS値が0.60を満たしておらず、耐震性に「疑問あり」と判定される。

Y(東西)方向:IS値が0.6以上かつCTU・SD値が0.28以上であるため、「安全(想定する地震動に対して所要の耐震性能を確保している)」と判定される。  
よって、X(南北)方向は耐震改修による耐震性の向上が必要と判断される。

方 向		X 方向 (南北方向)						Y 方向 (東西方向)					
最小 Is 値 (2 次)		Is =0.403 (1 階)						Is =3.157 (1 階)					
Is, CTU・SD 一覧表	階	保有性能 基本指標 Eo	形状 指標 So	経年 指標 T	構造耐震 指標 Is	累積強度 指標 CTU・SD	判定	保有性能 基本指標 Eo	形状 指標 So	経年 指標 T	構造耐震 指標 Is	累積強度 指標 CTU・SD	判定
Is CTU・SD 一覧表	B 1	0.393	1.14	0.90	0.403	0.28	NG	3.077	1.14	0.90	3.157	3.50	OK

# 天井(全量)点検結果

2018年11月20日に、通路天井点検口の数カ所より天井内調査を行った。調査内容は、「地下街の安心避難対策ガイドライン:国土交通省」の点検内容を参考にした。  
下図に示すように外観点検はAからDの4ブロックにわけ、天井内点検は8か所の点検口を代表箇所として点検をおこなった。



点検結果を以下に示す。

1) 外観点検

AからDのすべてのブロックで、天井板、天井面設置器具（建築・設備）に不具合は認められなかった。

ブロックA

点検チェックシート（外観）

点検場所	天井材	ブロック 番号	点検結果
<input type="checkbox"/> 広場天井 <input checked="" type="checkbox"/> 通路天井	<input checked="" type="checkbox"/> 在来ボード天井 <input type="checkbox"/> ルーバー天井 <input type="checkbox"/> 金属パネル天井 <input type="checkbox"/> ガラス天井 <input type="checkbox"/> 直天井	ブロックA	A：不具合無 B：不具合有
通路巾 6.0m 天井高≒3.0m			

外観写真



検項目		点検結果	備考
外 観	① 天井板 天井板に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	② 天井面設置器具（建築） シャッター下端周り、大型サイン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊材の曲りはないか	A・B	
	③ 天井面設置器具（設備） 照明、ガラリ、エアーカーテン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊材の曲りはないか	A・B	
④ 天井ファン ジョイント周辺	エキスパンションジョイント(EP)のカバーが汚れ、破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	

ブロックB

点検チェックシート（外観）

点検場所	天井材	ブロック 番号	点検結果
<input type="checkbox"/> 広場天井 <input checked="" type="checkbox"/> 通路天井	<input checked="" type="checkbox"/> 在来ボード天井 <input type="checkbox"/> ルーバー天井 <input type="checkbox"/> 金属パネル天井 <input type="checkbox"/> ガラス天井 <input type="checkbox"/> 直天井	ブロックB	A：不具合無 B：不具合有
通路巾 6.0m 天井高 2.45m			

外観写真



検項目		点検結果	備考
外 観	① 天井板 天井板に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	② 天井面設置器具（建築） シャッター下端周り、大型サイン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊材の曲りはないか	A・B	
	③ 天井面設置器具（設備） 照明、ガラリ、エアーカーテン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊材の曲りはないか	A・B	
④ 天井ファン ジョイント周辺	エキスパンションジョイント(EP)のカバーが汚れ、破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	

ブロック C

点検チェックシート（外観）

点検場所	天井材	ブロック 番号	点検結果
<input type="checkbox"/> 広場天井 <input checked="" type="checkbox"/> 通路天井	<input checked="" type="checkbox"/> 在来ボード天井 <input type="checkbox"/> ルーバー天井 <input type="checkbox"/> 金属パネル天井 <input type="checkbox"/> ガラス天井 <input type="checkbox"/> 直天井	ブロック C	A : 不具合無 B : 不具合有
通路巾 6.0m 天井高 2.45m			

外観写真



検項目		点検結果	備考
外観	① 天井板 天井板に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	② 天井面設置器具（建築） シャッター下端周り、大型サイン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊り材の曲りはないか	A・B	
	③ 天井面設置器具（設備） 照明、ガラリ、エアーカーテン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊り材の曲りはないか	A・B	
④ 埃がジャンクション周辺	エクスパンションジョイント(EPJ)カバーに汚れ、破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	

ブロック D

点検チェックシート（外観）

点検場所	天井材	ブロック 番号	点検結果
<input type="checkbox"/> 広場天井 <input checked="" type="checkbox"/> 通路天井	<input checked="" type="checkbox"/> 在来ボード天井 <input type="checkbox"/> ルーバー天井 <input type="checkbox"/> 金属パネル天井 <input type="checkbox"/> ガラス天井 <input type="checkbox"/> 直天井	ブロック D	A : 不具合無 B : 不具合有
通路巾 6.0m 天井高 3.0m			

外観写真



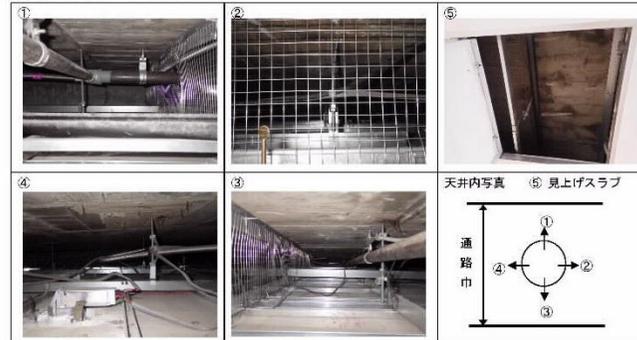
検項目		点検結果	備考
外観	① 天井板 天井板に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	② 天井面設置器具（建築） シャッター下端周り、大型サイン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊り材の曲りはないか	A・B	
	③ 天井面設置器具（設備） 照明、ガラリ、エアーカーテン等に破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	
	天井面から器具が吊られている場合は、吊り材の曲りはないか	A・B	防犯カメラがあるが、吊り材はなし
④ 埃がジャンクション周辺	エクスパンションジョイント(EPJ)カバーに汚れ、破損・劣化・漏水跡・錆・隙間・ズレはないか	A・B	

## 2) 天井内点検

確認できた範囲の結果は、点検項目で「天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造体からのほぼ鉛直に設置されているか」に対して、@980mm、@1070mm部分が2箇所確認されたが、概ね約900mmの間隔にあり、他の点検項目も含めて問題ないことを確認した。また、1箇所1階床下面や梁にジャンカが確認されている。耐震診断のための現地調査結果においても、壁などにひび割れ、エフロレッセンス等の損傷が認められた。地下街天井以外の部分においても、1階床下面にひび割れ、漏水跡、ジャンカおよび鉄筋露出等の損傷が認められている。いずれも比較的軽微なものが多いが、今後改修工事などにあわせて、損傷の程度の大きいものは補修を行う必要があると考えられる。

点-1

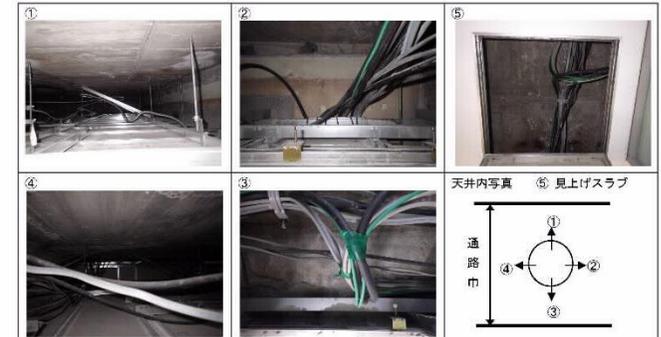
点検チェックシート（天井内2）



	検項目	点検結果	備考	
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造体からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	@980
		天井吊りボルトの接続接続の状況確認	A・B	
	③ 天井下地材	天井設置機器吊り材と共用りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
		野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
	④ 天井設置器具（建築）	天井材端部と周囲の壁に過度なクリアランス（隙間）がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	
		シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防壁垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共用りになっていないか	A・B	小型のサインあり 固定状況確認不能
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B		
⑦ 天井内周辺	天井内のエクスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B	調査不能	
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、研り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B		

点-2

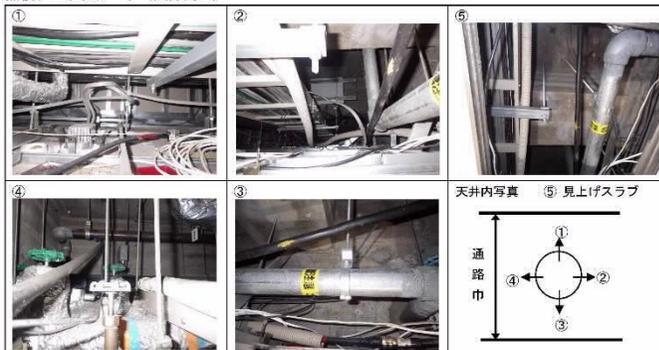
点検チェックシート（天井内2）



	検項目	点検結果	備考	
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	@1070
		天井吊りボルトの接続接続の状況確認	A・B	
	③ 天井下地材	天井設置機器吊り材と共用りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
		野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
	④ 天井設置器具（建築）	天井材端部と周囲の壁に過度なクリアランス（隙間）がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
		シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防壁垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共用りになっていないか	A・B	
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	ケーブルあり
⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B		
⑦ 天井内周辺	天井内のエクスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B		
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、研り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B	補修跡あり	

点-3

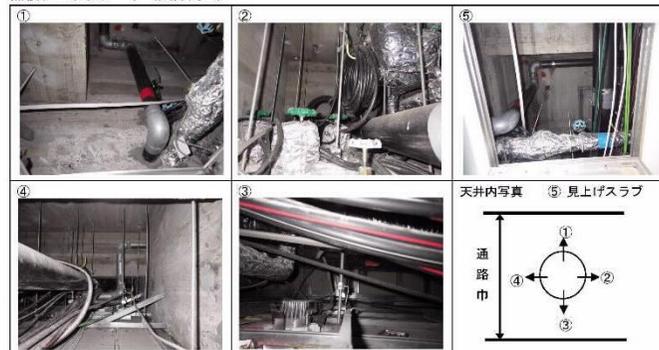
点検チェックシート（天井内2）



天井内目視		検項目	点検結果	備考
①	漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
②	天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	約360
		天井吊りボルトの海津接続の状況確認 天井設置機器吊り材と共吊りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
③	天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
④	天井設置器具(建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防塵垂壁等は構造物もしくは天井平地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A・B	
⑤	天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑥	天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルト下で確実に取り付けられているか	A・B	
⑦	球形ジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B	
⑧	構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、析り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B	

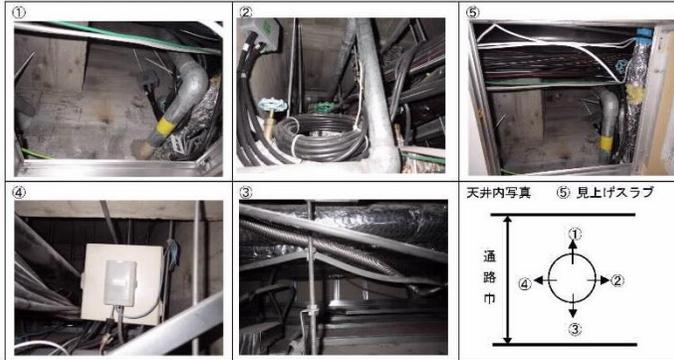
点-4

点検チェックシート（天井内2）



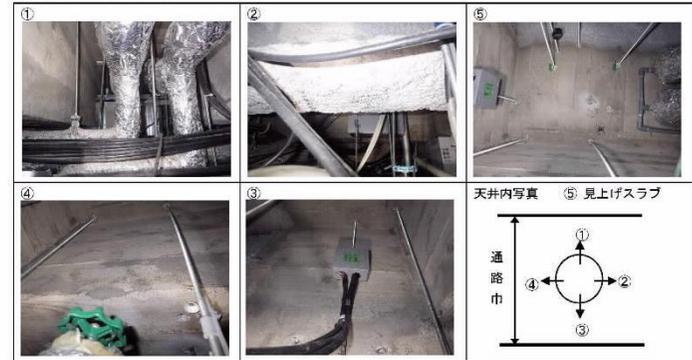
天井内目視		検項目	点検結果	備考
①	漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
②	天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	約650
		天井吊りボルトの海津接続の状況確認 天井設置機器吊り材と共吊りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
③	天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
④	天井設置器具(建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防塵垂壁等は構造物もしくは天井平地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A・B	
⑤	天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑥	天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルト下で確実に取り付けられているか	A・B	
⑦	球形ジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B	
⑧	構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、析り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B	スラブと梁にジャンカあり

点検チェックシート (天井内2)



		検項目	点検結果	備考
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	@640
		天井吊りボルトの溶接接続の状況確認	A・B	
	③ 天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
	④ 天井設置器具 (建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防煙垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A/B	
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
	⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑦ 埃パッキンジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周辺に漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B		
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、折り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B	壁に欠損、ひび割れあり	

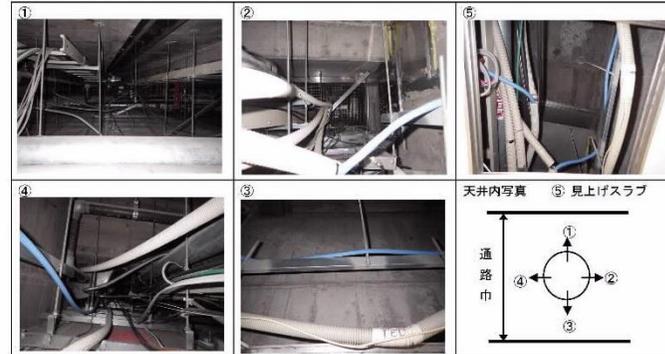
点検チェックシート (天井内2)



		検項目	点検結果	備考
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	@350
		天井吊りボルトの溶接接続の状況確認	A・B	
	③ 天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
	④ 天井設置器具 (建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防煙垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか、器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A/B	
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
	⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑦ 埃パッキンジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周辺に漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B		
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、折り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B		

点-7

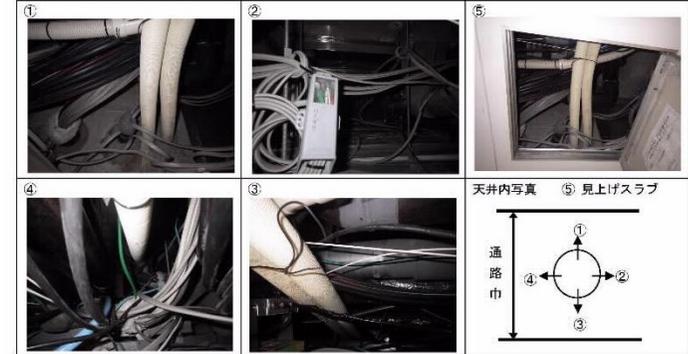
点検チェックシート (天井内2)



	検項目	点検結果	備考	
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	◎820
		天井吊りボルトの溶接接続の状況確認	A・B	
		天井設置機器吊り材と共吊りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
	③ 天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
	④ 天井設置器具 (建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防煙垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか。器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A・B	小型のサイン (固定状況確認不能) あり 防犯カメラ (吊り材なし) あり
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B		
⑦ 照明/空調ジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B		
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、折り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B	スラブ下面に剥落・鉄筋露出あり	

点-8

点検チェックシート (天井内2)



	検項目	点検結果	備考	
天井内目視	① 漏水状況	漏水はないか、漏水がある場合に対策はなされているか	A・B	
	② 天井吊りボルト	天井吊りボルトが約900mmの間隔で構造物からほぼ鉛直に設置されているか	A・B	◎780
		天井吊りボルトの溶接接続の状況確認	A・B	
		天井設置機器吊り材と共吊りや干渉していないか、適切な間隔が確保されているか	A・B	
	③ 天井下地材	野縁は野縁受けに緊結されているか、野縁受けは吊りボルトに緊結されているか。	A・B	
		天井材端部と周囲の壁に適度なクリアランス(隙間)がある場合、振れ止めが設置されているか	A・B	クリアランスなし 振れ止めあり
	④ 天井設置器具 (建築)	シャッター本体、大型サイン等は構造物や構造物からの架台に確実に固定されているか、防煙垂壁等は構造物もしくは天井下地に確実に固定されているか。器具下地と天井下地は共吊りになっていないか	A・B	
	⑤ 天井内電気設備	バスダクト、ケーブルラック、天井内機器が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B	
⑥ 天井内機械設備	ダクト、ファンコイル、送風機、エアーカーテン等が構造物から吊りボルトで確実に取り付けられているか	A・B		
⑦ 照明/空調ジョイント周辺	天井内のエキスパンションカバー周りに漏水、コンクリート面の白華はないか	A・B		
⑧ 構造物の状況	構造物のスラブ下面、壁面に顕著なクラック、ジャンカ、折り、鉄筋の露出、錆跡、白華はないか	A・B		

5.地下街防災推進事業において行われる補助対象事業	
1)安全点検、調査、計画作成	天井部の点検口からの天井内調査(実施済)、耐震診断、概略補強案作成、地下街防災推進計画策定
2)通路等公共的空間の防災性向上に資する施設の整備	耐震改修詳細設計、耐震改修工事(北側地下通路部分に2箇所程度の耐震壁の設置)
3)避難施設、防災施設の整備	非常灯LED改修工事
4)避難啓発活動	避難シミュレーション
6.補助対象事業の計画期間、概算事業費	
1)補助対象事業の計画期間	令和1年度、令和2年度、令和3年度
2)補助対象事業の概算事業費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震診断、概略補強案、地下街防災推進計画策定費 3.00百万円</li> <li>・耐震改修詳細設計費 2.20百万円</li> <li>・耐震改修工事費 27.72百万円</li> <li>・非常灯LED改修工事費 2.45百万円</li> <li>・避難シミュレーション 1.50百万円</li> </ul> <p style="text-align: right;">(金額は消費税10%を含む)</p>

7.関連事業	
都市再生緊急整備地域の指定と関連事業	<p>平成28年11月 神戸三宮駅周辺・臨海地域98haが都市再生緊急整備地域に指定された。</p> <p>平成28年11月 都市再生緊急整備地域98haのうち45haが特定都市再生緊急整備地域に指定された。</p> <p>特定都市再生緊急整備地域(45ha)の整備方針では神戸の都心で「歩く人が中心のまち」を目指している。同整備地域にあるM-KITCHEN(エム・キッチン)では、西側の階段を一部避難対策のためのスロープに改修することを検討している。</p>
8.避難誘導計画	
○災害等緊急を要する事態が発生した場合の基本的な避難誘導の考え方	<p>具体の避難誘導計画については、以下のとおりとする。</p> <p>(1)避難誘導に関する基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の開始について、防災管理責任者(統括管理者)は、地震が発生した場合、パニック防止を図るとともに、避難判断基準に基づいて避難させるか、待機させるかを判断し、指示を出す。なお、防災関係機関から避難命令が発令された場合は、速やかに避難誘導を行う。</li> <li>・避難指示の伝達は、視聴覚障害者や外国人等を考慮し、基本的には多言語対応の放送設備を使用して行う。</li> </ul> <p>(2)避難方法、避難経路についての考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災管理責任者(統括管理者)は、地震時における避難については、来街者等のパニック防止に努めるほか、次の点に留意して避難させる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①防災管理責任者(統括管理者)は、非構造部材の損壊危険等が予測される場合は、来街者を速やかに屋外へ避難させる。</li> <li>②防災管理責任者(統括管理者)は、避難の指示を出すまで、テナント従業員及び来街者等を落ち着かせ、照明器具や棚等の転倒・落下に注意しながら、柱の周りや壁ぎわなど安全な場所待機させる。</li> <li>③防災管理責任者(統括管理者)は、全館一斉に避難させる場合は、避難者をブロックごとに分け、避難順を指定して行う。</li> <li>④防災管理責任者(統括管理者)は、避難を行う場合、本部隊長及び地区隊長と連携し、各ブロックの避難経路に避難誘導員を配置して行う。</li> </ol> </li> <li>・地上への避難について、非構造部材の損壊やガス、電気設備等の損傷による二次災害発生の危険性又は浸水被害の可能性もあることから、テナント従業員及び来街者は地上に避難させることを基本とする。</li> </ul>

		<p>地上への避難は、原則として直近の階段から徒歩で行い、避難場所に誘導するときは、避難場所(神戸市中央区八幡町2-1「磯上公園」)までの順路、道路状況、被害状況について説明する。</p> <p>①本部隊長は、地上の安全を確認したうえでテナント従業員及び来街者等を避難させる。</p> <p>②避難誘導にあたっては、拡声器等を活用し、避難の際には先頭と最後尾に誘導員を配置する。</p> <p>③避難する際には、ブレーカーの遮断、ガスの元栓の閉鎖等を確実にを行う。</p> <p>④本部隊長は、傷病者等の自力避難困難者に対しては、担当員を派遣して避難援助させるなどの対応を行う。</p> <p>⑤本部隊長は、避難状況を統括管理者に逐次報告する。</p> <p>(3) 情報収集・情報伝達に関する体制、内容についての考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関等の運行状況及び地震の被害状況の把握に努め、館内放送等を活用して、来街者に情報を伝達する。なお、帰宅困難者についての情報を関係機関等へ連絡する。</li> <li>・従業員やその家族の安否情報の確認・手段としての通信機関の災害伝言ダイヤル等を活用した連絡体制の確立を図る。</li> </ul> <p>(4) 警戒宣言等が発せられた場合の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災管理責任者(統括管理者)は、警戒宣言の発令及び南海トラフ巨大地震に係る津波発生の警報が発せられた場合は、「ミント神戸(神戸新聞会館ビル)M-KITCHEN 含む消防計画」に基づき行動するものとする。</li> </ul>
--	--	---